

■ 平成 27 年度 第 1 回 新潟市立豊栄図書館協議会

日時：平成 27 年 7 月 29 日（水）午後 2 時から

会場：豊栄図書館 集会室

（司 会）

定時より早いのですが始めさせていただきたいと思います。開会の前に、今年度から新しく委員になられた皆様に委嘱状の交付を行います。略儀ながらお席に委嘱状を置かせていただきました。ご了承ください。ご確認をお願いいたします。

それでは、平成 27 年度第 1 回新潟市立豊栄図書館協議会を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の進行を務めさせていただきます豊栄図書館の石田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は豊栄児童センターの伊藤所長にも委員をお願いしてあるのですが、業務の都合により欠席という連絡を承っております。また、早通中学校の佐藤校長先生が、業務の都合によりまして 3 時ごろに中座されるということですので、よろしくお願い申し上げます。

では、最初にお配りいたしました資料の確認をさせていただきます。本日お配りいたしました資料は、次第、裏面が協議会委員名簿になっております。それから、2 枚目が座席表、次第のその他のところでご説明いたします「新潟市立豊栄図書館の概要」、一番最後に A3 の 2 枚がございます。こちらは「図書館評価」です。これもその他のときにご説明いたしますが、こちらが 2 枚あるかと思えます。新しく委員になられた方には、「第二次こども読書活動推進計画」の本冊と概要版を配付してあります。そのほか、事前にお配りいたしました資料は、資料 1「平成 26 年度北区内図書館事業報告」、資料 2「平成 26 年度利用状況及び蔵書冊数」、A4 横の用紙でございます。資料 3「平成 27 年度北区内図書館事業計画」となっております。資料はそろっておりますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、次第に沿って進めてまいります。会議録を作成するために録音しております。会議録は、後ほど委員の皆さんにご確認いただいた後、ホームページ等で公開いたします。ご了承ください。

では、はじめに、豊栄図書館長 樺澤がごあいさつ申し上げます。

（館 長）

本日は、皆様、ご多忙のところ本豊栄図書館協議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。日ごろから豊栄図書館、それから松浜図書館、濁川、南浜地区図書室、

これらの運営、活動につきましてご理解とご協力をいただいておりますことに、まずもって心から感謝申し上げます。

今年度初めての協議会は、公募委員を含めまして5名の新しい委員をお迎えして、全員で9名ということで構成されます。どうぞよろしく願いいたします。

新潟市立図書館では、前期5年の「図書館ビジョン」、「第一次新潟市子ども読書活動推進計画」を終了しまして、平成27年度から5年間の新しい後期計画がスタートすることです。「心豊かな都市（まち）づくりを支える市民の身近な学びと情報の拠点」という図書館を目指して事業を展開していくということになります。

豊栄図書館では、昨年度に引き続きましてテーマ図書のコナー、新着コナーの拡充及び展示スペースの有効活用、これらを図るということで、見せる図書館づくりということをテーマにしてございます。また、松浜図書館では、子どもの読書コナーのリニューアル、それから雑誌の展示場の増設などを行いました。いずれも来館される方々の貸出意欲の醸成を図るための工夫ということです。

次に、学校との連携ですけれども、年度早々に、北区内の21校の小中学校、江南区は16の小中学校を訪問いたしまして、校長先生、図書館主任、学校司書とのコミュニケーションを図ってまいりました。また、実務研修も行いまして、読書、学習・情報、環境整備の一端を担ってまいりました。これからも必要に応じて学校図書館の支援を継続して行ってまいります。

市民との協働という面では、ボランティア団体及びグループと連携した活動。7月26日には、豊栄図書館を利用し図書館まつりを共催で行い、盛況でございました。これらの事業展開を積極的に行ってまいりたいと思います。

本日は、過年度事業報告、そして新年度の事業計画などの議題のご審議をいただく予定ですので、委員の皆様からは忌憚のないご意見をちょうだいしたいと思います。

最後になりますけれども、本日が実りのある会議となりますよう、よろしくご審議のほどをお願いしまして、開会のあいさつとさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(司 会)

では、昨年度から引き続き委員をお受けいただいている方のほかに5名の方が新しくなりましたので、自己紹介を簡単に行っていただきたいと思います。お一人ずつ所属とお名前を、樺澤館長から時計回りでお願いいたします。

(館 長)

豊栄図書館、松浜図書館を管轄して5年目に入りました。少し長くなりまして、そろそろ

引退なのですがけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(事務局：栗谷川)

豊栄図書館学校図書館支援センターの栗谷川と申します。よろしくお願いいたします。

(金桶委員)

葛塚小学校地域教育コーディネーターの金桶布志代と申します。よろしくお願いいたします。

(伊東委員)

新潟医療福祉大学の伊東と申します。なかなか予定が合わなくて参加できないことが多いかと思いますが、よろしくお願いいたします。

(諸橋委員)

濁川小学校の諸橋徹と申します。よろしくお願いいたします。

(佐藤委員)

早通中学校の佐藤文俊と申します。よろしくお願いいたします。

(亀田委員)

引き続き、こちらのほうでお世話になります。早通の亀田と申します。よろしくお願いいたします。

(野口委員)

豊栄図書館、松浜図書館で読み聞かせのボランティアをやってます野口洋子です。よろしくお願いいたします。

(白神委員)

豊栄図書館応援団の白神と申します。よろしくお願いいたします。

(坂井委員)

松浜6丁目の坂井と申します。今回、初めて委員になりました。一生懸命に、感じたところ、いろいろなところを、皆さんのご意見を聞きながらしっかりやっていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(事務局：石田)

豊栄図書館の石田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さん、ありがとうございました。

続いて副会長の選任に入りたいと思います。では、会長、よろしくお願いいたします。

(会 長)

どうもありがとうございました。

5番目として、副会長の選任ということになります。この中で5人の方が新しくなられた

わけですが、前任者も含めまして副会長を希望される方はいらっしゃいますでしょうか。どなたかいらっしゃいますか。会長一任でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

会長一任の声がありましたので、それでは、一任いただいてよろしいでしょうか。

この件につきまして、私のほうからは、新しく委員になられました白神委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

初めてですけれども、これから話しを重ねていけば、すぐ仲間になれると思いますので、よろしくをお願いします。

（事務局）

それでは、白神委員、副会長席に移動をお願いいたします。

（会 長）

会長の私と白神委員で進めていきたいという形をとりたいと思います。よろしくをお願いします。

では、最初の議事に入りたいと思いますが、事務局から説明をお願いします。

（事務局：石田）

では、平成 26 年度の北区内図書館の事業報告からさせていただきたいと思います。資料 1「平成 26 年度北区内図書館事業報告」をご覧ください。

1、乳児・児童・生徒読書活動の支援事業。①職員が担当する「おはなしのじかん」。豊栄図書館では、「わらべうたのじかん」を 8 回開催し 46 名の親子が参加してくださいました。そのほか、0・1・2 歳児とその保護者のための「おはなしのじかん」は、43 回開催し 509 名の参加。平成 25 年度より参加者が増えておりますが、土曜の午前 10 時半の 0・1・2 歳児の会は定着してまいりまして、リピーターの方も多くございます。5 歳以上向けの「おはなしのじかん」は、43 回開催することができまして 98 名の方にご参加いただきました。松浜図書館は、0・1・2 歳とどなたでも出られる会を分けておりませんので、合わせて 58 回 222 名の参加でございました。

②ボランティアによる「おはなしのじかん」。豊栄では 42 回開催いたしまして、199 名の参加をいただきまして、ボランティアは延べ 80 名の方が関わってくださいました。豊栄図書館では、平成 25 年度から①の職員が担当する「おはなしのじかん」が増加して、②のボランティアの時間が減少しておりますけれども、注意書きにありますように、ボランティアが開催できない月が出てまいりまして、その曜日は職員のほうで代替して開催しておりますので、その結果数値に変更が出てまいりました。松浜図書館は、夏休み事業からの PR に

よって、秋の事業において多くの参加がありました。

ページをめくっていただいて、③その他の事業、北区内での「ブックスタート」。新潟市では、1歳児の歯科検診の折に絵本のプレゼントを行っておりますが、北区内では515名の方に配布することができました。これは、延べ73名の読み聞かせボランティアの皆さんからご協力いただいております。ボランティアの方のご協力がないと、正直成り立たない事業でもあります。皆さん、ブックスタート事業の意義や図書館の説明、利用の方法などを、保護者一人一人の方に丁寧に行ってくださいました。

続きまして、豊栄の図書館の欄をご覧ください。2番目、「春のおはなしリレー」。子どもの読書週間事業で、豊栄で活動して下さっている読み聞かせボランティア団体4団体の皆様と協働して「春のおはなしリレー」を行っております。こちらは、丸一日計5回「おはなしのじかん」を開催いたしまして、今年は5月10日の土曜日に開催し28名の方にご参加いただきました。そのほか、読み聞かせボランティアの皆さんは夏と冬に特別なおはなし会をこの集会室で開催し、毎年好評をいただいております。

続きまして、夏の児童向け事業として真ん中あたりに「かがく実験室」と「一日子ども図書館員」という欄がありますが、「かがく実験室」はブーメランを作って飛ばすということを行いました。小学校1、2年生が対象だったのですけれども、ラッカーで補強した紙をブーメラン型に切って、その羽根の角度の付け方で飛び方が違うことを行って、豊栄図書館の築山のところでみんなでブーメランを飛ばして遊びました。「一日子ども図書館員」は、小学校3、4年生と5、6年生の回に分けて二日間開催いたしました。

次に、松浜図書館の欄をご覧ください。下のほうになります。松浜でも夏の児童向け事業として「一日子ども図書館員」を開催し、こちらは、小学校4年生から6年生までを対象として日曜日に開催しております。また「図書館でビンゴ!」という事業を平成26年度から新規で行っているのですが、大変好評で、おはなし会を聞いたり本を借りたりするたびにマスにスタンプを貼ってもらって、シールをもらって埋まっていくのです。それがビンゴになりますと景品がもらえるということで、本当は8月中旬までの期間の予定だったのですが、あまりにも好評で8月末まで延ばしました。また、そのビンゴに参加してくれた子どもたちが、面白かったということで、秋の読書週間に「秋のおはなし会スペシャル」をボランティアが行ってくださったのですが、それにリピートしてくれたようでございます。そのほか、ボランティアの方と協働して、クリスマスとミニツリー作りを行いました。

続きまして3ページ、④講師派遣・体験学習・視察等については、例年通りでございますので表をご覧ください。

次に4ページに移ります。一般向け事業をご覧ください。①は「読書会」。隔月で奇数月

の第二火曜日午前中に、子どもの本を皆さんと読みあうという事業を開催しております。

②その他の事業、「石塚さんの昔ばなしを楽しむ会」が一番目にありますが、こちらは、読み聞かせボランティアの「おはなしマドレーヌ」というところが主催して、直接ご自分たちで石塚さんにコンタクトを取ってお招きして、こちらで開催してくださっています。石塚さんというのは江南区にお住いの昔語りをしてくださる方で、平日ですので一般の方が対象となるのですが大変好評で、それまでは春に一回きりだったのが、平成 25 年度からは春と秋の 2 回になっております。

二つ飛んで「わくわく体験夏まつり」。先ほど館長からもご案内がありました。豊栄図書館では、豊栄図書館応援団というボランティア団体が中心となって毎年開催していただいております。図書館全体を使ってスーパーボール釣りやコカリナコンサート、工作コーナーや本のクイズラリーを行い、古本市、絵本の部屋、職員が案内するバックヤードツアーを行っております。毎年、今年はいつですかといった開催日の問い合わせをいただくくらい人気のイベントでございます。こちらがご実家の方がそれに合わせて帰省するとおっしゃっていますので、すごいのだなと職員も思っております。今年度も 26 日に開催したばかりでして、多くの方にお越しいただきました。例年にないくらいの盛況ぶりでございます。

二つほど飛んで「秋の講演会」。読書週間の事業として、昨年度は翻訳家の金原瑞人氏をお招きいたしました。10 年ほど前に芥川賞を取った金原ひとみさんのお父様で、ご自身は翻訳家なのですが、大変楽しいお話をしてくださいまして、10 代から年配の方までお越しください、楽しい講演会となりました。

松浜図書館の欄ですが、「なじらね？この本」の下、松浜図書館は、公民館の文化祭に合わせて利用促進のキャンペーンを行いました。また、公民館の事業に積極的に協力し、利用者の方から好評を得ておりました。公民館のほうで行った講座に資料を提供するというのをしたのですが、その講座後も、図書館から資料を紹介してもらったのだけれどもというお問い合わせをいただきまして、皆さんの生涯学習のお役に立てていることを実感しております。

5 ページ目にまいります。③講師派遣・体験学習・視察等については、表のとおりでございます。

3 番、啓発事業として、広報。北区全体では、豊栄図書館も松浜図書館もテーマ図書を館内に展示して、ご来館くださった方に少しでも興味を持っていただけるように工夫しております。北区内の図書館だよりとして、「しらかし」を隔月で発行しております。そのほか、豊栄図書館では、10 代のボランティアの皆さんが「ティーンズ通信」を作成して、年 3 回発行してくださっています。近隣の中学、高校等にお送りしております。

4、図書館ボランティア活動。ボランティア活動は、読み聞かせ以外で、豊栄では書架整理、松浜図書館では本の補修をしてくださるボランティアが活動しております。

最後に、学校図書館支援センターの報告を、担当の栗谷川がいたします。

(事務局：栗谷川)

5の学校図書館支援センターをご覧ください。学校図書館訪問ですが、4月から7月に担当の北区、江南区の小中学校全37校を訪問しまして、市立図書館の貸出カード作成と支援センターの取組みのご理解とご協力をお願いしてまいりました。新採用校8校には、4月を含め読書週間実施の秋と年度末を迎える2月の3回訪問しまして、そのほか要請があった学校を含め、延べ80回訪問いたしました。

学校からの相談業務ですが、件数が大変増加しているのは、新採用の司書が16名おりましたが、そのうち8名が担当区でしたので、多くの相談が寄せられた結果となりました。図書の選書、除籍、図書の配置など、実務に関する相談が大変多く、相談を受けて助言して訪問した学校もありました。

学校司書新規採用者研修会ですけれども、4支援センターで学校図書館の実務や読み聞かせ、蔵書管理システムなど、5回実施いたしました。研修講座「教諭と司書連携充実」は、総合教育センター主管講座で、教諭と司書と一緒に学校図書館を活用した授業づくりを学んだ講座です。

当支援センターの研修ですが、第1回は6月に学校を会場に蔵書の更新の研修を行いました。読書センター、学習情報センター機能の充実を図るため、共同作業を通して除籍のポイントについて学び合いました。第2回は本の修理を、第3回はオリエンテーションをテーマに小中学校司書から実践発表をしていただき、その後で自校でのオリエンテーションの工夫点、あるいは実践してみたいことを全員で話し合いました。どの研修会も、アンケートで高評価をいただいております。

支援センター運営協議会ですが、小中学校の校長先生、教諭、学校司書、教育支援センター指導主事の8名を委員とする運営協議会を2回開催しまして、貴重なご意見、ご提言をいただきました。

次に、学校貸出図書搬送の件数が大変増えておりますけれども、学校司書の方から先生方にPRすることで、学校図書館の学習・情報センターとしての利用の拡大につながっていったのではないかと考えております。

それから、どんぐり文庫とブックバスの図書配付についてです。簡単にご説明いたしますが、旧豊栄市では、平成14年からブックバスの「しらかし号」の巡回と、平成15年から学級文庫「どんぐり文庫」の配本を実施いたしました。そして、市立図書館が小中学校を直接

支援する方法で子どもたちの読書活動の推進を図ってまいりました。合併後、新潟市は、学校司書の配置や蔵書の充実を図るとともに、学校図書館支援センターによる学校図書館支援などを行って、学校での読書環境が整ってきました。このような状況の中、市立図書館の直接的な支援は役割を終えたとしまして、平成 23 年度末をもってブックバスの巡回と「どんぐり文庫」の配本を廃止いたしました。その蔵書が約 27,000 冊ありましたので、平成 24 年度は旧豊栄市の希望の学校に約 9,300 冊、平成 25 年度は北区全体と担当区の江南区に約 9,600 冊、平成 26 年度には全市に向けて 4,300 冊を配布しまして、3 年にわたるプロジェクトを終了いたしました。蔵書の充実に役立ったということで、各校から感謝の言葉をいただいております。

「学校図書館支援センター通信」は、合同版と合わせ年 5 回発行しまして、情報の提供に努めました。

(事務局：石田)

続きまして資料 2「平成 26 年度利用状況及び蔵書冊数」をご覧ください。A4 の横版のものでございます。数字が細かいのでございますが、平成 26 年度北区合計と、平成 25 年度北区合計の欄をご覧ください。開館日数が、平成 25 年度の 1,283 日から 811 日に減少しておりますが、これは平成 26 年 3 月に早通と木崎地区図書室を閉室したことによります。その分が引かれてこのようになっております。同様に、隣の欄の蔵書冊数ですが、地区図書室の欄が平成 26 年度は同じように減少しております。これも地区図書室の閉室によるものになります。

少し横に飛びまして、受入冊数、除籍冊数ときまして、登録者数の欄でございますが、平成 25 年度から平成 26 年度、3,000 人ほど減少しております。貸出冊数と貸出人数においては、微増でございます。平成 24 年度は松浜図書館の休館もございましたので、そこから少し盛り返した感じになっております。

以上でございます。

(会 長)

平成 26 年度分の説明を終わりますが、これにつきまして、皆様からのご質問、またはご意見等がございましたらお願いします。お聞きしたいことはございますか。

(白神副会長)

「おはなしリレー」なのですけれども、何団体が加わってやっていますよね。ボランティアが一生懸命考えて企画して、計画を立てて、これを読もうという感じでその時間をみんなが埋めていくわけですよ。でも、来られる方がすごく少ないと思うのです。「わくわく体験夏まつり」などは、定着しているということもあるのですけれども、「おはなしリレー」



もけっこう定着しているのではないかと思うのです。だけど、ここに関わっていて「おはなしリレー」があまり来ないのはなぜかといつも考えるのですけれども、もう少し何か。例えば「わくわく体験夏まつり」ですと、近隣の小学校には全部の児童にチラシを配布したりとか、それから持って行けるところは保育園とか幼稚園も配っていただいたりしているわけです。そうすると、1歳児の歯科健診で「ブックスタート」した子どもたちもついでについて来るような感じで、小さい方もたくさん来られるわけです。だから、せっかく1歳児の健診でブックスタートをして本に親しんでも、やはり「おはなしリレー」とかという楽しいことをやっているときに子どもたちが来て、人に本を読んでもらって、今まで見たこともない本に触れたりとかして、楽しんで裾野が広がっていけばいいなといつも思うので、もう少し皆さんに浸透するような宣伝と言ってはおかしいですね。広報でしょうか。その仕方を少し考えられたほうがいいのかと思っています。

(館長)

ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思いますので、その辺、事務局のほうでもう一頑張り、創意工夫させてもらいたいと思います。ありがとうございました。

(会長)

ほかに質問、ご意見はございませんでしょうか。いいですか。

一番最初のほうに、平成26年度の子どもの利用状況の話をしていただいたのですが、相対的に見ると、確かに多いなという事業も見えますし、少ないなという事業も、まちまちなのですね。その中で、この子どもたちが、学年が上がる、小学校から中学校に移る、そういうものが図書館に来る阻害になるのか、逆にいいほうに変化するのか。持続性的なものは目に見えるものでしょうか。

(事務局：石田)

そうですね。0・1・2歳などですと、やはり親御さんと一緒に来てくださる。親御さんが図書館に来ることが習慣になっていると、一緒について来ておはなし会に入ると。でも中には、5歳児くらいの子でおはなし会を楽しみにしていて、連れて来なければならないような状態だという方もいらっしゃるのですけれども、それが、段々学年が上がっていきますと、小学生になると、おはなし会があるときに声をかけてみるのですけれども、もう自分の本を探すということが多くなってきて。図書館には来てくれるのです。やはり、小学校1、2年生でも遠い子は自分の足で来られませんので、親御さんが一生懸命連れて来てくださっているのですけれども、自分の読書の世界を広げている子が多くて、無理強いはいできないので。

(会長)

どなたか、お聞きしたいことはございますか。

学校の図書館を見ている先生と、それからこちらの行政でやっているものを比較するということは、そうないわけですね。

(諸橋委員)

学校の図書館がありますので。

(会 長)

私も比較して見たことはないのですけれども、学校の図書館は、やはり子どもたちの勉強を主にした形の使い方なのですね。

(諸橋委員)

いえ、本が好きな子もいますので、学校の図書館司書が一生懸命に工夫してくれて、貸出数を増やそうということは、そういう努力はしています。基本的には本を読むところですので。ただ、それに付随して、調べ物をして勉強しましょうということももちろんしていますので、勉強の場でもあるのですが。

(事務局：栗谷川)

読書センターが今まで中心になってきたという色合いが強いのですけれども、後ほど説明しますが学校図書館活用推進校の取り組みというのは、これからは学習・情報センターとして使っていこうという取組みになります。貸出量を見ますと、全市では、小学校が一人平均で1年間に100冊程度借りております。中学校は10冊程度です。

(会 長)

私ども、一般社会にいと、学校の図書館というのはなかなか入りづらいのですね。

(佐藤委員)

ただ、今、うちの学校は地域の方に開放していますので。少ないですけれども、地域の方にも来ていただいて、昨日はご近所の方が、中学生の妹さんが、まだ小学生なのだけれども中学校の図書館に行ってみたいということでお母さんが一緒に来られて、本を読みますということもありました。

(館 長)

学校のほうからの求めに応じて、市立図書館から蔵書を配送便で送り届けたり返してもらったり、そういうネットワークがありますので、学校図書館と公共図書館とのつながりは段々強くなっております。

(佐藤委員)

ちなみに私も、学校司書にお願いして新潟市図書館の蔵書を取り寄せてもらって、夏休み中に読もうかなと思っています。

(会 長)

私どもの知らないところでネットワークがうまく動いているなという感じがしますね。

話は違いますけれども、私の家内がお茶をやっている、70～80 ページくらいの写真入りの毎月出るお茶の本を、昭和 20 年代からずっととってあるのです。今頃になると、もう開く機会はないですね。では、どうすると。家庭だと、蔵書の部屋など無理なわけですから、この前、全部縛って出しましたけれど。あのようなものというのは、お茶をやっているところできちんと蔵書しているのしょうけれども、一般の家庭では、捨てるのはもったいないけれども捨てるを得ないという形ですね。

(白神副会長)

図書館と小学校などのつながりは、今あるということでお聞きしたのですが、市の保育園とか、私立の幼稚園とかいろいろありますよね。その辺とのつながりというのは、今はまったくないのでしょうか。というのは、先ほども言ったように、1 歳でブックスタートするわけですよね。その後が途切れてしまうと、小学校になってから本好きになるかという、そうそうならないのです。やはり、6 歳までの間にいかに本を読み聞かせるかどうか、本に触れさせるかですごく本好きの子が育っていくと思うのです。私はそう思っています。だから、小さいときのほうがむしろ、そうやって小さいとき本に触れさせた子どもたちは、小学校になって本を読みなさいと言わなくても、本当に自ら読むような感じに、そういう環境で育った子はなっていく。全部が全部とは言いませんけれども、それが多いのではないかと思うのです。だから、幼児期というのがすごく大事ななと私は思っているのです。

今、私の孫なども保育園に行っていて毎日のように借りてくるのですが、家にあるものまで借りてきて、これはあるよとかと言ったりしているのですが、でもそうやって借りてきて読むのをものすごく楽しみにしているわけです。そのような感じで、少しはあるのですね。100 冊くらいでしょうか。200 冊くらいあるでしょうか。でも、やはり選ぶのは、200 冊くらいだとすごく限られてしまって、もっと充実したところから借りてこられたら、もっと本が好きな子が増えるのだらうと思うのです。本当に幼児期は大切だと思うので、小学校ともあれですけれども、ぜひ市の保育園とかそういうところとも連携して、そういうところに通っている子どもたちがいろいろな本を目にできるように。

なかなか、ここには来にくいという言葉をよく聞きます。というのは、吹き抜けになっているから、子どもがわっと声を出すと、全部に響いてしまって注意されてしまったという親御さんもいらっしゃるの、だから、もう少し図書館には行けないみたいな感じの親御さんの声も聞くので、やはりそういう子たちが、もっと身近で本に触れられたらいいのではないかと思います。

(館長)

学校とは、図書館というつながりでまずやっています。今度、福祉関係となると、またそういう組織の系列もありますけれども、何よりも配送するお金ですね。今でも相当投資して全学校と、オール新潟で、全部で配送便をやっていますので、相当お金がかかっています。それは、喜んでもらっているのですから投資効果はあるのですけれども、これをさらに市立保育園とか私立保育園に広げる、おっしゃることは理想だと思います。その辺はお金との相談もありますし、組織同士の連携の今後のことも考えながら、おっしゃることその通りかと。

ただ、図書館も赤ちゃんタイムというものを設けていまして、騒いでも皆さんが許してくれるような環境になっていますので、ぜひ、小さい子も、保育園の子も来てもらって騒いでもらってけっこうだと私は思っていますけれども。たまにうるさいと言う人が前にいましたけれども、今はあまり豊栄の場合はいないみたいですよ。

(白神副会長)

そうですね。すぐにということではないのですけれども。

(館長)

おっしゃることは、継続性という意味でそうだと思います。

(白神副会長)

幼児期はすごく大切だなと思って。児童館などに読み聞かせに行っていますと、小さいお子さんを連れてお母さんが来るのです。そして、児童館にある本を読んであげたりしているので、児童館などももう少し充実していると、漫画ばかりがわりと多いので。漫画が悪いとは私は思わないのですけれども、私も漫画世代だったので。だからそれは悪いとは思いませんけれども、もっと素敵な絵本とかが置いてあればいいなと思ったりするので。

(館長)

先ほど栗谷川が言いましたように、小学校と中学校の間にひとつギャップがあるのです。その辺は私どもも一生懸命、中学校での読書環境や、向上につながるようにするにはどうしたらいいとか、学校の皆さんや中学校の校長先生方とも話し合いながらやっていかなければいけないかなと思ひまして、そういう流れを閉ざさないでいくのが大事だとは十分思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(事務局：栗谷川)

昨年度、木崎中学校と光晴中学校で、北区のボランティアの方による「おはなし会」が実施されまして、まず校長先生のご理解があったということと、それから図書館主任、学校司書、地域教育コーディネーター、それから読み聞かせボランティアの方と、そして支援センターという連携で行われたのですけれども、大変よかったと、生徒も喜んでいたということで、今年度も依頼がきております。

小学校ではボランティアの方の「おはなし会」はけっこう多いのですけれども、中学校ではまだ少なく、私が知っている限りでは、横越中学校も行っているということなのですが、読書活動の一環として中学校での読み聞かせとか「おはなし会」というものが広がって、今おっしゃった、幼稚園からの一貫した流れがひとつできればいいなと思っております。

(金桶委員)

先ほどの本好きにするためのということにつながると思うのですが、私も保育園で読み聞かせをしたりするので、最近のニーズで言うと、赤ちゃんのための絵本講座を開いてほしいというニーズがあります。どんな本を選んだらいいのかとか、最初のところ、ブックスタートというものはあるのですが、そうではなくて保育園の支援センターに通って来る保護者の方たちの要望と、それから園の先生方、ここ2、3年でちらほら増えてきているので、そういうところから始められると一連でいけるのではないかなと思います。

私たちが頼まれたのですが、私たちは、専門的というよりもボランティアとして、母親としてやってきたことの体験談みたいにして語って講座とさせていただいているような感じなのですが、今後そういうものがどこの園でも増えてくるのではないかなと。そこから始めれば、かなり一連でそういった支援教育みたいなものができていくといいかなと思っています。

(事務局：石田)

そのせいなのか、昨年度、最近なかった講師依頼がありまして、豊栄児童センターですね。そちらから、来ている0・1・2歳の保護者と、0・1・2歳の子たち向けの絵本の講座、あとは自分たち職員のために講座をしてほしいというものがあって、行ってまいりました。そういうものも増えてくるのか。あとは、ゆりかご学級を公民館が行っているの、松浜もそうですし、豊栄もそうなのですが、講師の依頼がきています。そこで広げていければなと思っていますけれど。

(会 長)

去年、私もかかわったのですが、夏休み期間中、浜のほうからこちらのほうに来て、図書館に寄ったり博物館に寄ったりしたバスが出ましたよね。あれは、今年も同じスタイルでやるのかどうか、聞いていますか。

(事務局：石田)

やっています。もう時刻表もきております。

(会 長)

あれは私も担当していて、思ったよりもお客さんの数も多かったし、中学校のところにご入って来るものですから早通中学校のところで見ていると、運転手も非常にいい感じで、子どもたちも喜んでいる様子でした。この形で終点の遊水館に行く人もいれば、博物館に行く人も、ここを使う人もいるということで、すごくバラエティに富んだいい企画だったなと見ていますけれども、今年もやっているのですね。

(事務局：石田)

この前も、25日だったか、お話し会があったのですが、ちょうどバスに乗って子どもだけで来たようでした。そして、バスの時間に合わせて帰って行くというのが見受けられたので、使われているのだと思います。

(会長)

考えられるいろいろなことをやってみればいいのですね。それでだめなものは切れればいいし。

そのほか、何かご意見、質問等がありましたらお願いします。

(諸橋委員)

先ほどの中学校と小学校の話なのですが、小学校は、子どもが図書館に行く機会が多くなるように担任なども心掛けているところがあると思うのですが、それよりも、やはり先ほど出ている絵本というものの自体が、幼い子が対象のものだというような先入観みたいなものが一般的に皆さんあって、でも大人も楽しめる絵本も今ありますし、中学生なども絵本は楽しいものだというようなことで、やはり先ほど言った絵本の読み聞かせをするような機会を中学校でもどんどんつくっていくということが非常に大事になってくるのではないかなと思います。やはり先ほどおっしゃいましたけれども、小さいときに本好きの子ができるので、中学になってから本好きというとなかなか難しい部分があると思うのですが、中学生は、ほかにも部活動とか自分の世界がたくさんありますので、そういった意味でも、そこからどう本のほうに興味を向けさせるかということは非常に難しいところだろうと思います。本当に学校とか豊栄の図書館がアプローチをしていかないと、なかなか中学生が本のほうには向かないのではないかと。そのような感じを、お話しを聞いていて思いました。

(会長)

確かにそうですね。私どもの歳になると、絵本というのは大人が見るものではなくて、どちらかというと子どもが見るものだという先入観が高いですね。ところが、最近になると、ぶらっと来て、この図書館の絵本のところを見ると、私どもが見ても資料にほしいみたいな絵本がたくさんありますよね。

(諸橋委員)

全校集会などでも、やはり絵本を使う校長先生も多くいらっしゃいますよね。その中で、心を揺さぶられるものはすごくたくさんあるので、中学生に響くようなものを選んで子どもたちに読んでやると、けっこう食い付いてくるような感じはしますよね。

(白神副会長)

実は私、朗読をやっているのです。音楽に合わせて朗読ということをやっているのですけれども、いろいろな小学校とか中学校にも何回も行っているのですけれども、そして大人向けにもやっているのです。全部、題材は絵本なのです。今おっしゃったように、本当に大人が感動する絵本はたくさんあります。中学生などは、「葉っぱのフレディ」という絵本、英語の教科書にも取り上げられたと思うのですけれども、それで知っている生徒は分かりませんけれども、本当に真剣に聞きます。女の子などは涙を流す子もいたりして。だから、中学生でも大人でも感動できる本はたくさんあります。

ただ、いろいろな小学校、中学校に行って感じることは、校長先生たちを前にして本当に申し訳ないのですけれども、先生方が真剣に聞いていらっしゃる学校は、生徒さんも本当に真剣に聞いてくれます。でも、先生方が生徒の動きばかりを気にして、中に入って行ってゴツンとやってみたり注意したりとかばかりしている学校は、生徒も散漫です。私ども、朗読をやっていて、どう聞いているかというのはモロに感じますので。だから、先生方が本当に興味を持って聞いているところは全然違うなということはいつも思います。

その朗読の一環で、原爆に関する「この子たちの夏」というものも毎年ずっとやっているのですけれども、新発田の中学校に2校ずつ行っているのです。その新発田の中学校に行くと、「この子たちの夏」というのは、原爆の悲惨さを伝えて平和というか命の大切さを考えてもらう作品なのですけれども、それは、本当に先生方がよそ見をしていたりば一としているところは、生徒も半分寝ているような感じですし、先生方によって違うなと思います。ですから、本当に先生方からまず本好きになっていただきたいなといつも思っています。申し訳ありません。生意気な口をきいて。

(野口委員)

今の意見で、それこそ南浜の小学校でずっと朝のボランティアをやっているのですけれども、自分の子どもの小さいときに。自分たちの子どもが中学校に入ったからその流れで中学校でもやらせてもらえませんかと言って一時期やったことがあったのです。でも、やはり校長先生が代わられると続かないというか。白神委員のように音楽を付けてという大それたことはできないのですけれども、それこそ本当の昔語りをやったり、少し大人向けの絵本を読んだり、その時間だけ楽しんでもらえればいいかなみたいなことをずっとやってきたのですけれども、やはり校長先生が代わられると難しいところが、特に中学校はあるみたいですね。

(佐藤委員)

中学校の話題がたくさん出たので。まず一つ、読書の位置づけなのですが、実際に朝読書という形で朝の 15 分なりの時間を読書に充てている学校もありますが、そうではなくて、そこは朝の学習をさせるということをやっている学校もあるのです。いろいろな要望が学校の中に寄せられているのですけれども、時間は限られているので、どこをどのように動かすかというのは、もちろん学校の裁量の中でやっているわけなのですが、やはりどこに重点を置くかによって、例えば朝の読書をやる学校は、もちろん本好きの子どもが育つようにということをやっているのですけれども、ある一方で、読書などをしていない場合ではないでしょうか、勉強させなければと思っている学校もあるわけです。だから、その辺のところは、学校が何に重点を置くかによって決まってくることで、必ずしも読書にということには向いていないと思います。

それから、先ほどご指摘のあった、どちらが先なのかなということはあるのですけれども、子どもたちが集中しないから中に入って行って注意しなければいけないと思っているのか、それをやるとかえって集中できないのか、ニワトリが先か卵が先かのような感じのところもあるのですけれども、やはりその辺というのは、トータルで一つのことにきちんと向くようにというのはおっしゃるとおり、学校で教員がその雰囲気をつくっていかなければいけないところだと思いますので、やはり心して、特に私たち、外部から人が来ると急にしっかりするのだよみたいな、急ではないのだけれども、しっかりするのだよみたいなことを言いがちなわけです。だからそういう反応があるのかなと、今思い返していたのですけれども。とにかく、やはり学校では、教員が模範を示さなければいけない部分は当然あると思うのです。

(白神副会長)

4 年くらい前に、「この子たちの夏」で早通中学校に行かせていただいたのです。そのときは、よく聞いてくれました。

(佐藤委員)

そうですね。

(会 長)

では、平成 26 年度の分のお話は、この程度でよろしいですか。何か、付け加えてお聞きしたいことはありませんか。

では、続きまして、今年度の事業について、お願いします。

(事務局：石田)

では、資料 3「平成 27 年度北区内図書館事業計画」をご覧ください。

1、乳児・児童・生徒読書活動の支援事業については、例年通り行ってまいります。①の



「おはなしのじかん」は、職員担当の「おはなしのじかん」でございます。平成 26 年度に松浜図書館が時間変更して参加者数を伸ばしたという実績がございますので、今年度はこのまま、時間、曜日等は平成 26 年度と変わらず行ってまいりたいと思います。

②その他の事業。「ブックスタート」は、北区内での歯科検診の日にちが決まっておりますので、それに合わせて「ブックスタート」を開催してまいります。

豊栄の欄をご覧ください。先ほど副委員長のほうからご指摘がありました「春のおはなしリレー」でございますが、今年度も5月9日に開催させていただきました。ただ、今年は、例年よりも参加が多かった年でございます。でも広報は、ご指摘のあったとおり、少し考えて、工夫して行っていきたいと思います。ありがとうございます。今年度、夏休みの事業は「かがく実験室『ペットボトルでエコマイクを作ろう』』という、数年前にも一回やったものなのですけれども、コイルを巻いて丸いペットボトルで音を響かせて、今、子どもの部屋に見本が飾ってありますのでご覧になってください。今のところ、8月3日を予定しております。「一日子ども図書館員」は、8月4日と6日、午前中に行うことを予定しております。そのほかは、ボランティアの皆さんが秋、冬の「お話し会」を予定してくださっております。

松浜図書館です。松浜図書館も「一日子ども図書館員」と、今年度も「図書館でビンゴ！」を行う予定にしております。秋と冬は、ボランティアの皆さんと協働で「クリスマス会」と「秋のおはなし会」を開催予定です。

2 ページにまいります。講師派遣・体験学習・視察等は、先方というか、お相手から申し込みいただいたら行いますので、前年どおり行ってまいります。

2 番、一般向け事業、「読書会」。今年度も隔月で、奇数月の第 2 火曜日朝 10 時半から開催いたします。たまたま今回は、5 月と 7 月に行ったのですけれども、ちょうど職場体験の岡方中学校と濁川中学校と早通中学校の子たちが読書会に入ってくださいまして、一般の方と一緒に、見も知らない大人の人と、堂々とといいますか、きちんと自分が読んだ感想を、読み込んできて感想も述べていて、ちょうど若い人たちが読む本だったので、参加した方からも非常に楽しい、よかったというご感想をいただきました。

続きまして、②その他の事業。今年度、「ブックスタートボランティア養成講座」。これも、ボランティアをやりたいという要請、習いたいという要請もありましたので開催いたしまして、今年度は4月に終了しております。ただ、受講の方4名が、そのまま「ブックスタート」のボランティアとして活動してくださっております。今年度は、おはなしを語るストーリーテリングの講座を9月から開催する予定にしております。

秋の読書週間は恒例の講演会を行うのですけれども、今年度は、挿絵画家の佐竹美保さん

を予定しております。「精霊の守り人」の本を読まれたことのある方はいらっしゃいますでしょうか。上橋菜穂子さんというアンデルセン賞をとった作家がいるのですけれども、上橋さんの本の装丁はほとんどこの佐竹美保さんなのです。ダイアナ・ウィン・ジョーンズの「ハウルの動く城」、ジブリが「ハウルの動く城」として映像化しましたけれども、それも佐竹美保さんが表紙と挿絵を描いています。ほとんど、ヤングアダルトといいますが、ティーンエイジャー向けの本で、売れる本の装丁を描いている人が佐竹美保さんです。今年度はその佐竹さんの講演会を予定しております。③体験学習・視察等も、随時申し込みがあったら受けてまいります。

3 ページの3番、啓発事業ですが、例年通りテーマ図書も引き続き、皆さんの興味を引くような題材を探してきてやってまいりたいと思います。また、「しらかし」の発行も隔月で行ってまいります。豊栄図書館では、「ティーンズ通信」の10代の子たちが、学校や自分の受験の都合で入れ替わりがあるのですけれども、それでも引き続き行ってくれるということでございました。

では、4番、学校図書館支援センターは栗谷川のほうから説明いたします。

(事務局：栗谷川)

「学校図書館訪問」ですが、例年通り4月から7月にかけて、担当の小中学校37校を館長と担当者2名で訪問しまして、校長先生、図書館主任の先生、そして学校司書の方に今年度の運営方針や取組みなどを伺いました。学校司書の新採用校には年3回、ほかに司書の異動校や要請校に訪問予定しております。

それから、第二次新潟市子ども読書活動推進計画に基づきまして、今年度から「学校図書館活用推進校事業」がスタートいたしました。これは、読書センター、学習・情報センターとしての機能をより高めるために、毎年各区3校程度を推進校としまして5年間ですべての小中学校が取組むというものです。今年度は、北区は、松浜小学校、南浜小学校、南浜中学校が推進校になっております。これらの学校には、取組みの様子を伺いながら相談に対応するなど、支援センターとしてできることを支援していきたいと考えております。

「新任学校司書研修」ですけれども、昨年度より回数を1回増やしまして6回実施し、5回目が終了したところです。学校図書館の業務をはじめ、読み聞かせの方法、本の修理など、16名を対象に実施しております。「学校司書実務研修会」ですが、7月6日に第1回目を終了いたしました。太夫浜小学校の川又校長先生から、学校の学習・情報センターとしての学校図書館や学校司書の役割について講演をしていただきまして、その後のグループ討議では、中学校の校区ごとに学校司書がグループを組みまして情報交換の時間を設けました。小中連携の手掛かりになったかと思えます。第2回を9月に予定しております。

それから、昨年に引き続きまして総合教育センター主管の研修講座「教員と司書との連携充実」は、8月7日に探究学習編、こちらのほうは白根学習館で150名の予定でしたけれども、大変参加者の申し込みが多くて165名で行います。10月6日に読書活動編を総合教育センターで、こちらのほうは募集中でございます。

当支援センターの運営協議会については、第1回を7月6日に開催しまして、平成26年度の事業報告と平成27年度の事業計画を説明しまして、委員の皆様からご意見やご提言をいただいたところです。昨年同様、年2回開催いたします。

それから、学校からの相談業務、図書搬送、「学校図書館支援センター通信」の発行は例年通りとしまして、きめ細やかない支援と情報提供、市立図書館の豊富な資料の貸出を行って、学校図書館を支えてまいりたいと思っております。以上です。

<佐藤委員退席>

(事務局：石田)

その他でございます。豊栄のボランティアによる、松浜ボランティアによる「おはなしのじかん」は、登録いただいている読み聞かせボランティアグループの皆さんから、例年通りの時間に読み聞かせを行っていただきます。豊栄は、「石塚さんの昔ばなしを楽しむ会」が今年度も2回行われます。6月に1回ございました。

そのほか「夏のおはなし会」、「冬のおはなし会」。そして「わくわく体験夏まつり」は、この26日に豊栄図書館応援団が中心となって開催していただきましたが、先ほども申し上げましたとおり例年になく盛況ぶりで、豊栄図書館は入館者数のカウントをしているのですが、2,500カウントをして、通常、土日でも1,000カウントいくかなくらいのところでございますので、非常にありがたかったです。賑わってよかったと思っております。

今年度は、「ボランティア交流会」をどこかで行いたいと、未定なのですが計画しております。そのほかは、例年通りボランティア活動を、書架整理や本の修理等の受入をしております。以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。今までの説明の中で、ご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

(伊東委員)

個人的なことなのですが、「ブックスタート」の絵本というのは、どのように選んでどのようなものを渡しているのですか。

(事務局：石田)

NPOブックスタートが出版界の協力を得て通常の価格よりも安価で絵本を提供しており、

それらの絵本を一覧表にまとめています。新潟市立図書館では担当司書が相談してその一覧表から1歳歯科検診でお渡しする絵本を選んでいきます。現在は「じゃあじゃあびりびり」「くだもの」「おつきさまこんばんは」の3冊で、絵とテキストがすっきりしている絵本です。

(伊東委員)

それと関連して、いろいろな事業をやっていらっしゃって、先ほど広報というお話もありましたけれども、私、大学にいて、こういうことをされているということがあまり伝わってこないのですね。正直に申し上げます。そして、特に私は社会福祉学部なので、社会福祉関係の情報はいろいろなところで、地域でやっていらっしゃることは入ってくるのですが、なかなか図書館は入らなくて、それは我々の努力不足もあるかもしれないのですが、どうしたらいいものかなど。せっかくいろいろなことをやっていらっしゃって、ここに住んでいる職員も当然いるわけです。学生もお世話になっているので。

話は変わってしまいますけれども、大学の図書館のほうには、こういう情報は出しているのでしょうか。

(事務局：石田)

講演会などは、医療福祉大学にもポスターとチラシをお送りしております。

(伊東委員)

分かりました。

(事務局：石田)

ホームページのシステムが7月に切り替わりまして、ホームページもリニューアルされたので、今、インターネットをされる方であれば、新潟市立図書館の情報は比較的入手しやすくなっております。

(伊東委員)

分かりました。

(会 長)

そのほかに、質問、ご意見はございますか。よろしいでしょうか。

(事務局)

では、その他に入ります。

(館 長)

それでは、議事の(3)その他でございます。今日お配りしましたものでございますが、「新潟市立図書館の概要」という両面3枚ものをお手元にご準備いただきたいと思っております。これにつきましては、新しい委員の方もいますので、できるだけ最新の情報を提供できれば

ということで、その他で準備しました。3 分以内で終わりたいと思いますので、よろしくお時間をいただきたいと思います。

1 ページの 1 番、はじめにというところで 6 行目ほどいきますと、豊栄図書館は、今話題の国立競技場の関係の安藤忠雄さんの設計によるものだと。その資金は電源立地促進対策交付金 4 億円をもらい、一部に充てたということが、1 番の主な内容です。

2 番、図書館の歩みでございます。下から 5 行目、平成 12 年 11 月に開館ということでございます。もう 15 年くらい経ちますので、建物も空調などがだいぶ傷んでまいりまして、今後はメンテナンスが大変だなというところですよ。下から 2 行目、先ほど栗谷川から話がありました、学校を回る移動図書館車が運行を始めたというのが平成 14 年です。2 ページ目 4 行目、平成 16 年頃、入館者が 100 万人に達したということでした。それから 9 行目、平成 23 年 4 月、ここで、学校との連携を深めるために、公立図書館に学校図書館支援センターが設置されました。正式にスタートしたのは平成 23 年です。それから同じく平成 23 年、皆様もご存知だと思いますが、窓口の業務委託。事業者が入って貸し出し等の業務を豊栄図書館でスタートしたということです。平成 24 年に移動図書館車を廃止いたしました。この理由は、先ほど栗谷川が話したとおりでございます。平成 25 年に入館者が 300 万人に達成したということでございます。

3 番については、先ほど話しをしました。

4 番、建物の概要です。5 行目、蔵書能力が 22 万 5,000 冊ということで、開いているところと閉じているところがほぼ 10 万冊くらいずつ収容できます。

5 番、工事関係です。ここに書いてあるとおりですが、一番下、工事費が 12 億円、備品が 5,000 万円ということで、約 12 億 6,000 万円ということです。有名建築家の建物にしては安いのではないかと。

3 ページをご覧ください。平成 27 年度の図書購入費は 13,182,000 円です。平成 11 年のスタートから資本投下して段々充実してきましたが、合併後落ち着いた数字になっているということでございます。

7 番、8 番は記載のとおりです。

9 番です。ここにありますように 0 類から 9 類まで、公立図書館は特別小説とかというものに特化できませんので、まんべんなくいろいろなニーズに応えられるように冊数を増やしています。19 万 4,509 冊ということでございます。

10 番の登録者数は 145,000 人で、新潟市全体の数字でございます。145,000 人ということで、ここが新潟市立図書館のネックでございます。2 割ほどしか登録していない。いわゆる貸出カードを、全 80 万人くらいのうちの 20 パーセントくらいしか登録していない。こ

れを増やしたいということで重点的にいろいろと働きかけを行っているわけでございます。カードを作ればよいというものではなくて、やはりカードを作って本を借りる。そのためには作らなければ借りられないということで、借りてお家でじっくり読んでいただきたいということでございます。

4 ページ目です。11 番、機器関係ということで、2 行目、インターネットを 2 台置いております。

12 番、協議会の委員が今 9 人ということです。

13 番、職員体制。豊栄図書館は、臨時職員 1 名と非常員 3 名、それから再任用一人を含めまして 10 名。それから、窓口業務委託が 9 名ということになります。

15 番、主な事業でございます。設立、竣工当時は谷川俊太郎さんや松井直さんの講演会を行ってきました。それから、平成 22 年には今森さんや真壁さんなど著名な方に来ていただいています。5 ページ目、上から 4 行目、中江有里さん、女優でコメンテーターとしてテレビに出演されている有名な方でございます。

16 番、市民ボランティア。豊栄図書館応援団、バスケット、おはなしの泉、クリーク・ラックの皆様には、大変お世話になっております。

次に、松浜図書館の概要です。ここに書いてありますように、昭和 56 年、北地区公民館に併設されました。5 番目、蔵書冊数は 37,000 冊ほどです。職員体制は、前は正規職員がいたのですが、今は非常勤嘱託職員 5 名と臨時職員 3 名で運営しています。

地区図書室の概要ということで、濁川と南浜、それぞれ連絡所の 2 階に図書室を隔日で午後開室しているという状況でございます。

駆け足で図書館の概要を説明させていただきましたので、お時間がありましたら、またお読み返しいただければと思います。ありがとうございました。

(事務局：石田)

続きまして、先ほどお配りいたしました評価表についてご説明させていただきます。昨年度も委員をしてくださった方たちはご覧になったことがあると思うのですが、図書館の施策や事業評価を、新潟市の全図書館で、各図書館協議会の委員の皆様にご覧いただいております。三択でございます。

まず、シート No. 1 は事業評価シートで本日報告いたしました平成 26 年度の事業報告を参考に、評価していただきたいと思っております。自己評価も付け加えてありますので、ご覧になってください。シート 2 は、指標別評価シートです。こちらは、ただ漠然と事業の説明だけ聞いてもお困りになると思うのですが、資料購入費や蔵書点数の増減などの数値を出しまして、より細かい評価になります。図書館ビジョンに基づいた目標値を掲げて、この目標

値に達したかどうかで評点していますので、そちらをご参考に外部評価としてお書きいただきたいと思います。

夏休みの宿題みたいで申し訳ないのですが、8月末までに、ご記入のうえ返信用封筒でこちらにお戻しく下さい。学校の先生には、文書袋があるので付け加えていません。よろしくお願いたします。以上です。

(会 長)

確認ですけれども、封筒に入れて送るのは、この横長のシート1とシート2ですね。

(事務局：石田)

はい。

(会 長)

これで説明は終わりましたけれども、全体を通して何かお聞きしたいことがありましたらどうぞ。

(伊東委員)

この建物は素晴らしいと思って、私も引っ越して来てすぐ目に入りましたけれども、率直に言って、使い勝手はどうなのですか。

(事務局：石田)

利用者の方は、美術館みたいな図書館だと喜んでくださっていて、確かに声が響くのですが、クレームはほとんどありません。

(坂井委員)

私は松浜なのですけれども、少し勉強したいときにはここに来てやっているのですが、まだ豊栄市の頃は豊栄市には立派な建物があるのだという、そういう感じでしたね。安藤さんという方がこれを設計したのだという話を聞いていて、それほど松浜から来られるものでもない、距離的なもので来られるものではないのですけれども、合併してから今になって見ますと、非常に使い勝手がいいのですよね。と言いますのは、冬とか夏の暑いときとか、時期になりますとたくさんのお子さん勉強しておられますね。私は中央図書館なども行ったことがあるけれども、こんなにたくさんのお子さんがここに来て勉強したら、すごい力になっていくだろうなと。そういう意味では、非常に前の市長さんはじめ先見性があったのかなと、そのような思いがあります。

(伊東委員)

居心地がいいというか、そういうことですか。

(坂井委員)

私も子どもさんと一緒に2階の丸いところで勉強をしているのですが、きちんと自分のと

ころの電気も点きますし、至れり尽くせりだなと思って。今でも頭を整理するときに来ると、子どもさん、下でも勉強しているけれども、この周りもたくさん勉強しているなどと思って、今はいい施設だと思います。前のときは、こんなに金をかけてなどと。これが私の率直な意見ですけれども、今はよかったと思います。本当に。合併して、樺澤さんあたりが大変先見性があったのだらうなと思っています。

(館長)

ここ旧豊栄市は、図書館だけではなくて中学校も安藤さん、すぐそのつくし保育園も安藤さん。三つの安藤さんの建物があるということで、そういう意味でも少しユニークなところだと思います。

(会長)

月岡温泉から褒められましたよ。ここに来た全国の大工さんは、泊まりは必ず月岡だったそうです。

(白神副会長)

建物は本当に素晴らしいと思います。でも、使い勝手がいいかというと、実は私はあまりいいとは思っていません。と言うのは、書架がすごく高いのです。安藤さんの建てるときの説明会も2回とも全部出たのですけれども、安藤さんが造る建物は、デザイン性は素晴らしいけれども、利便性を考えたら少しよくないのかなと思ったのです。というのは、一つの建物を、普通の住宅なのですけれども、それを例にとられて説明されたら、その建物は狭小住宅なのです。3階建ての建物のことを説明していらしたのです。そこはすごく坪数が少ないところに建てたから、ここはお風呂は造りませんでしたと。なぜかというと、隣の隣がお風呂屋さんなのですとおっしゃったのです。それから、階段も造りません。階段は、この手すり……すごくデザインは素敵なのです。だけど、もしかしてお風呂屋さんがなくなったらどうなるのだらうなと思って、それから歳を取ったらどうやってあそこを上のだらうなと。そのようにすごく疑問に思ったのです。

デザインは本当に素敵なのです。ここもそう思います。だけど、子どもの本のコーナーはすごく高いところに本があって、こうやって見ても見えないのです。背表紙の字も見えない。それから、取るのに台を利用しなければいけないのです。いちいちすみませんと声を掛けるのは悪いから、私なども必死の思いで上って、台が大丈夫かなと思いながら上って取ったりするので、もし子どもが上のほうの本を取りたいときはどうするのかも思ったりして。それから、こちらのほうも書架がわりと高いのですよね。

この図書館を造る前にいろいろなところの図書館を見学に行ったのですが、見学先がすごく古い図書館だったのです。でも、入ると何かそこがざわめいているのですよ。ざわめいて



いるのですけれども、すごく居心地がいいなと感じたのです。低い書架が並んでいるところも、見通せるという明るさがあり、すごくいいなと感じたのです。そういうものがここはなくて、音をたてて、咳払いしたり、くしゃみしたりしたらいけないみたいな緊張感も少しありますし。コンファタブルと言ったらそうではないなと思うのです。そういう言葉は使えないところだなと。

私も確かに素敵だとは思っています。しかし、居心地がいいという言葉は、少し当てはまらないかなと思っています。図書館を造るときに、市民の交流の場としての位置づけも確かあったと思うのです。市民の交流の場とはなっていないのかなと思ったりしています。でも、図書館は好きだから通っているし、かかわっていますけれども。

(会 長)

これを造るとき、安藤さんが一番脚光を浴びましたよね。三か所視察に行ったのです。学校をよく造っているのです。学校に行くと、みんな打ちっぱなしでしょう。視察団が来ると、先生方が大慌てで貼ってあるものをみんな外すのですね。画鋲で留める場所も少ないのですね。みんな打ちっぱなしだから。

(白神副会長)

安藤さん、初めて造られたのですよね。ここの図書館。

(館 長)

そうです。

(事務局)

公共図書館としては初めてです。

(白神副会長)

本の森と名付けて、全部本で囲まれて、こんなに囲んで上までやってどうするのと私は思ったのですけれど。

(会 長)

少なくとも、私どもの誇りですよ。ささやかな誇り。ささやかと言ったらあれですけれども、卑下するものではないと思いますし、皆さん、まず来てくれるのだから。

(白神副会長)

確かに、建てたころ、視察はたくさん来ましたね。

(事務局)

今でも、視察ではないですけれども、やはり建築関係のお勉強をされている方とか、インテリアデザイナーの方たちがお見えになります。

(会 長)

私もここを造るときに一般市民としてかかわっていたのですけれども、そのときに、私は図書館のことは詳しくないわけです。素晴らしい人が建物を造るのだから、それに負けないような案を出そうとしたけれども、結果的に、私ども一般市民がこの中で固執したのは、喫茶コーナーです。あれだけはどうしても造ってほしい。あそこに本を持って行って旅行の企画をしたりするのもいいのではないかと言ったら、一回それに対して反対していますけれども、よくぞ限られたスペースにあのようなものを造るのを認めてくれたなと思って。今、けっこうコーヒーを飲みながら話ししていますよね。あのころは豊栄市だったものだから、旧豊栄市の方は分かりますけれども、昼休みになるとこういうところを使わざるを得なくなるのですよ。コーヒーを飲みに行くのなら、普通のまちではなくて、豊栄でやっている遊水館とかここに来ようとか。そういう協力する体制もあったのですね。職員の中にね。

(坂井委員)

今、美術館とか図書館で、いかにして人を集めるかというか、来ていただくかと。先ほど地域のお話しが少し出ましたけれども、地域の方をいかにして、これは新潟市の美術館なども一つの大きな課題なのですけれども、やはりどう利用者を増やしていけるかということが、こういう箱モノを造ったところでそういう大きい課題がありまして、黙っていると年々減ってしまうということなのですね。だから、地域の人が本当に気軽に、どうやって美術館とか図書館に来ていただけるのかということ、どこでもみんな考え、悩んでおられますよね。これは、美術館、図書館、もっとほかにもあるのかもしれないけれども、その場所でコミュニケーションを通じてどうやって自分自身を成長させて磨いていくかということも大きな課題なのだろうと思うのです。だから、そのようなことで、私は、やはりこの図書館が好きです。

(会 長)

新しい聖籠の図書館ができてから、新発田の図書館も影響があったというし、ここもあったのですか。

(館 長)

実は、聖籠に図書館ができるということで非常に危機感を持っていたのですけれども、影響が感じられないのです。聖籠の図書館の影響が感じられなくて不思議だなと思ったのですけれども、新発田の利用者も多いのですが、聖籠の利用者は意外と少なかったのかなとか、まだ十分に分析していませんけれども、そういう意味での影響は、数字としては表れていません。

(白神副会長)

医療福祉大学の生徒さんたちとイベントなどで一緒になることが多いのですけれども、本

当に素敵な方たちが多いですね。この前の葛展でも、葛塚のお祭りなのですけれども、そこで知り合った方たちも本当に素敵で、手話をやっている手話のサークルの方たちと一緒にいろいろなことをやったこともあるのですけれども、ふゆっ子まつりなども医療福祉大学の方がいろいろと関わってくれていますよね。そういう若い方たちの力を借りて、何かいろいろなことを企画されたいかがかなと思います。医療福祉大学の方たち、本当に皆さん素敵です。

(伊東委員)

そう言っていただくとありがたいです。

(白神副会長)

本当に、会う方会う方、みんな素敵なので、もう4年生でどこかに行ってしまうという、本当にもったいない。ここに居てよと言いたくなるくらい素敵な方たちが多いですね。いろいろなことを一生懸命にやっけてくださいますよね。

(伊東委員)

いろいろな学生がいますので。

(白神副会長)

手話サークルの方たちと手話で本を読むとか、そのような取組みもいいのかと思ったりしたりしますね。体育関係とか、そういう身体づくりのことに関わっている方もいらっしゃるし、いろいろなことをやっている方が多いので、若い方たちの手を借りてやられたらいいかなと思います。

(伊東委員)

いわゆる社会貢献に力を入れていますので、ぜひ声を掛けていただいて。

(館 長)

図書館を学習の場として利用していただいております。

(会 長)

盛り上がっているところですが、時間が経ちましたのでこの辺でお開きにしたいと思います。

(館 長)

ありがとうございました。お疲れさまでございました。